

受賞取組（商品）について（大賞・優秀賞・特別賞）

大賞（経済・産業部門 優秀賞）

株式会社読売旅行

「常磐沖の海産物など福島県『浜通り』地域の味覚と新たな魅力を体験する一般向けツアーを販売・実施し、『浜通り』の風評払しょくと復興を後押しする取組」

<取組概要>

福島第一原発の事故後の処理水問題などで今なお風評被害が続く福島県「浜通り」において、その風評被害を払拭すべく、震災遺構や復興への道のりを学び、更に地域の海産物「常磐もの」をはじめとする地元グルメを満喫していただく「ふくしま常磐をまるごと味わう旅2日間」を造成・販売。2024年1月～3月で8本の設定中、7本を催行した。

<受賞理由>

東日本大震災から年月がたった今も風評被害などが続いている状況の中、お客様を含めて民間としての支援ができ、ツアー後にも参加者が福島について考えていただけるような有意義な取組み。また、被災地の復興支援を風化させない意味でも考えさせられるツアーであり、福島の風評被害の払拭だけではなく、地域の活性化にも寄与するものである。中小の事業者にとっても非常に参考になる。

優秀賞

部門	受賞会社名	テーマ	内容	受賞理由
社会・ 人権部門	株式会社 エイチ・アイ・ エス	聴覚障害があつても旅を楽しめるように 手話で学ぶトラベル教養講座『しゅわ旅カレッジ』	聴覚に障がいをお持ちの方が国内・海外旅行に一步を踏み出せるよう、不安を解消すべく数々の手話で学ぶトラベル講座「しゅわ旅カレッジ」を2015年から実施している。講座例「手話通訳付き、ANA Blue Base体験見学ツアー」「NAA共同企画 成田空港内の聴覚障がい者向けバリアフリー施設見学講座」等	聴覚障がいをお持ちの方々の旅する機会を増やしていくことにつながる取組み。実施の際、航空会社や空港会社と協業し取組みそのものに拡がりをつくっていった点も評価された。ユニバーサルツーリズムの推進に寄与でき、どのような会社も取組める点も好評価。
地球環境 部門	ベルトラ 株式会社	癒しの中の学び 次世代につなぐツ ーリズムの推進	①アドベンチャーツーリズム②サステナブルツーリズム③ガストロノミーツーリズム④ウェルビーイングツーリズム、4つの軸で、国内外延べ3,822のツアー・アクティビティの造成を展開し、約4万人の方の参加があった。例「沖縄県・恩納村『大人の修学旅行 世界一サンゴと人にやさしい村で学ぶSDGs』ツアー」「長野県戸隠 国立公園保全活動ツアー」	オンラインの特性を活かし、若者から訪日外国人にも体験型環境保全活動の普及に貢献した。大人の修学旅行＝サステナブル（教育）観光というのが伝わりやすく、個人がSDGsに取り組むきっかけになっている。環境保全だけではなく、地域の特色を生かし、持続可能なツアー造成に繋げている点も好評価。4つのカテゴリーに分けて商品をマーケティングする手法は創造的で素晴らしく、他社の参考になる。
共創部門	トヨタファイナ ンシャルサー ビス 株式会社	乙女よ駆けろ！ 野うさぎスタンプラ リー	富山北部高校とコラボし、富山のおでかけアプリ「my route」を利用して、富山市内電車沿線にある18カ所の素敵なカフェや映えスポットを巡るスタンプラリーイベントを実施、集めたスタンプの数に応じて、富山駅構内に設けた特設ブースで景品をプレゼントする。	アプリの活用による交通公共機関の利用を促し、CO2の削減に貢献するとともに地域の活性化にも大いに貢献できる取組み。電子データで沿線への経済効果・人流を見える化したことで今後の観光戦略にも役立てることができ。未来の社会を担う高校生目線を大事に取り組んだ点も評価された。

特別賞

部門	受賞会社名	テーマ	取組内容	受賞理由
社会・人権 部門	株式会社 エイチ・ア イ・エス	伝統文化の継承と女 性支援 ～マヤ刺繍 プロジェクト～	コロナ禍で観光収入が途絶え厳しい生活を余儀なくされていたメキシコ・ユカタン半島に住むマヤ民族の末裔の方々の生活を支援するため、2020年から「マヤ刺繍プロジェクト」を運営、マヤ民族オリジナルのカラフルで美しい刺繍が施された商品を開発し、オリジナルのブランドを立ち上げ、ECサイトで販売。HISのメキシコ・ユカタン半島のツアーにマヤ刺繍のハンカチを特典ギフトとしてご用意し、ツアーに参加いただくことで支援に繋がる「サステナブルトラベル」も提供している。	旅行商品と関連させた取り組みであることが素晴らしい。海外で、このような仕組みを創り上げたことに感銘した。マヤ民族の文化継承をきっかけに、アウトバウンドの促進につながることを期待したい。
経済・産業 部門	株式会社 日本旅行	日本初のJブルーク レジット®付個人型旅 行商品を発売	大気中のCO2を吸収する海の生態系として注目される『ブルーカーボン』を活用した新しいカーボン・オフセット付商品を造成発売。 島根県松江市の島根原子力発電所3号機人エリーフ(浅瀬)の藻場で吸収されたCO2がJブルークレジットの審査で認証されており、中国電力が保有するこのJブルークレジット®を「Carbon-Zero」商品に活用。旅行を通じて海の豊かさを取り戻しながら温暖化対策に貢献。またこの商品はJR移動(新大阪～松江間/往復)並びに松江レクライン乗車2日分相当のCO2排出量もオフセットされる。	観光セクターの脱炭素の行動を促進する上で素晴らしい取り組み。電力会社と連携をした点も素晴らしい。ブルーカーボンの計算根拠が、どのような計算式なのかを明らかにしていくことで、さらに業界内のブルーカーボンを取り込んだ、取り組みが進むように感じる。脱炭素社会の実現だけではなく、産業強化や経済循環を生む持続可能な観点を取り入れた旅行商品の造成を期待する。
地球環境 部門	株式会社 毎日コムネ ット	学生・地域と連携し た清掃活動の実施 ～「学生1,000人によ る富士山での清掃活 動イベント」の実現を 目指して～	自社とつながりの深い地域で、地元の皆様協力のもと、社員や学生が参加する清掃活動を実施した。 ■山梨県南都留郡山中湖村 実施日：2023年6月28日 参加者数：44名(当社社員・役員) ■茨城県神栖市波崎 実施日：2023年10月19日 参加者数：60名(当社社員・役員に加え、「波崎旅館業協同組合」の方も18名参加) ■「わせGOMIゼロぷろじえくと」早稲田大学周辺地域(高田馬場駅～早稲田大学早稲田キャンパス間) 実施日：2024年3月30日 参加者数：253名(早稲田大学生が中心、当社社員・役員も運営および有志で参加)	清掃活動はよくある事例だが、地域支援、次世代を担う若手への教育の一貫として地球環境に貢献する良い例。観光地だけに限らず学ぶ場所・合宿地等も観光に深い場所として考えるべきだという違った観点が素晴らしい。今後、実際に学生が合宿先の地域とつながるきっかけを創出することを期待したい。
共創部門	株式会社 JTB	社内外におけるサス テナブルな協働・連 携推進	2021年にサステナビリティ委員会を設置し、サステナビリティを学び社内外に発信していくことは、持続可能な社会の発展に貢献するのみならず、自らの発展に寄与するものと考え、2023年はサステナビリティについて“知るフェーズ”と“検証フェーズ”として位置付け、自社のサステナビリティ経営や取組・国内外先進取組・持続可能な観光地マネジメントの国際基準・持続可能な観光地マネジメント認証機関に関する取組を学んだ。 「事業パートナーとの持続可能な関係構築、そしてサステナブルツーリズムのけん引役」を目指す。そのために、持続可能な観光の国際基準開発管理団体であるThe Global Sustainable Tourism Council(GSTC)のSTTP独自研修や認定の取得に向けた取組、事業パートナーへのヒアリングやセミナー実施を行っている。	サステナビリティに関する企業、社会の目標を共有するには地道な教育・普及活動が必要で、素晴らしい取組み。自社内だけでなく事業パートナーや販売提携店にもこの研修機会を拡大していくことで更なる広がりや包摂性が創出できると思う。時代の流れを適宜把握し、商品造成へつなげる姿勢を評価する。2024年度の実践面での取り組みも大変期待できる。また、旅行業界の発展に大きく寄与することに期待する。従業員への継続的な内トレーニングは必要。